

| 施設長 | 園長 | 記録者 |
|------|------|------|
| (玉田) | (川崎) | (小栗) |

社会福祉法人駿河会 地域密着型サービス運営推進会議【藁科】

日時 令和6年 11月8日 13:30~14:00

会場 ラポーレ駿河相談室

出席者

| | | | | | |
|-----|------|------|------|------|-------|
| 施設長 | 玉田直文 | 地域代表 | 森朝世 | こだま | 小林由季 |
| 園長 | 川崎誠之 | 地域代表 | 田中博子 | 嘉響 | 加藤真子 |
| 所長 | 稻葉紀和 | 地域包括 | 佐藤孝秀 | 地域包括 | 池田久美子 |

事務局 本日はお時間をいただきましてありがとうございます。

では、早速ですが駿河会の地域密着型サービス運営推進会議を始めたいと思います。

はじめの挨拶

玉田施設長 今日はお集まりいただきありがとうございます。

最近は暖かい日から急に気温が下がったりして体調を崩しやすい時期になっていますが、特に感染症の蔓延や体調を崩すことなく安全に運営ができていると思います。本日も忌憚のない意見を頂ければと思います。

事務局 本日の議題は令和6年度上半期の実績報告等について、嘉響・こだま双方の担当者より報告させて頂きます。

まず初めに、近状についてご報告させていただきます。

- ・ 10/17 (木) 静岡市介護保険課による運営指導実施。
 - ➡ 嘉響・こだま共に指摘事項なし。
- ・ 10月～12月でご利用者およびご家族に対して満足度調査実施中。
- ・ 感染症、コロナ関連について

●添付資料

※こだま・嘉響報告原稿

以上、通所事業所共通の近状についてご報告させて頂きました。

それでは、ここからは こだま、嘉響の順で、各担当者から報告させて頂きます。

こだま（小林） 添付書類参照

嘉響（加藤） 添付書類参照

事務局 以上、こだま、嘉響における令和6年度上半期実績の報告でした。

各担当者は、もっとお話ししたい事があると思います。

森さん、田中さん「こんなことを聞いてみたい」というような事はありますか？

田中委員 嘉響、こだまの報告を聞かせて頂いて、すごく頑張っていると感じました。

以前知人の家族が晃の園のサービスを利用した際、職員さんの対応がとても良かったとの話を聞きました。対応が丁寧なことは良い評判にもつながるのでこれからも丁寧な対応を心掛けて頑張ってほしいと思います。

森委員 私の地域では農協や学校もなくなって人が集まることがなくなりました。同じ地域のことだけど地域の様子がわからなくなっていて人が交流する機会の大切さを感じています。昨今の強盗が入るような事件を目にして、地域のことを知っていないと不安が大きいです。デイサービスもそうですが、どうすれば関りがもてるか考えることができます。

川崎 地域の困りごとを解決することも社会福祉法人としての役割だと思っているので、皆さんのが安心して暮らせる地域になるよう私たちも考えて行動に移していきたいと思います。

佐藤 山間部では高齢世帯も多く、最近では買い物に行くための移送支援の活動も見られています（福ロウはやぶさ隊等）。利用することで買い物ができることもそうですが、そういった機械に皆で集まって話をする機会になるので、包括としてもそういった活動を地域の方々に知ってもらうことで支援を行っていきたいと考えています。

稻葉 デイサービスでは送迎で地域を回らせてもらう機会が多くあるので、何か地域の方々のためにつくことができるのではないかをこれからも検討していきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

おわりの挨拶

川崎園長 様々なご意見を頂きありがとうございました。

デイとしてだけでなく、法人として運営を継続していくことで、地域での活動にも力を入れていきたいと思います。

事務局 皆さま、様々なご意見ありがとうございました。これで会議を終了とさせていただきます。

次回開催時は準備ができ次第ご連絡差し上げるように致します。

本日はありがとうございました。

デイサービスセンターこだま令和 6 年度上半期実績報告

地域密着推進会議

令和 6 年 11 月 8 日

★上半期実績

| | 令和6年度(9月時点) | 令和 5 年度(9 月時点) |
|-----------|-------------|----------------|
| 延べ利用者数 | 693 名 | 978 名 |
| 1 日平均利用者数 | 4.42 名 | 5.23 名 |
| 新規利用者数 | 4名 | 7 名 |
| 終結者数 | 4名 | 11 名 |

・利用者の減少

前年度の同時期と比べると、終結者数は少ないですが、新規利用者も少なく、今年も利用者が減少しています。

他のデイサービスでは、認知症の悪化で利用できない方の紹介がありました。昨年頃より、退院直後からの利用や末期がんなどの状態が悪い方の紹介が利用が多くみられています。

体験利用後に、利用を決めるが、利用前に入院され利用に繋がらない事や、利用後に、再入院や施設入所になり終了期間が短くなっている現状が続いている。

★令和 6 年度活動について

前年度は、『安心して在宅生活を送る事ができる様に支援する』という目標を持ち、職員の知識や経験をもとに、利用者や家族へアドバイスをする事ができ個別対応力が強みとなりました。しかし、新規利用者に繋げることが出来ず、利用者が減少しています。

このような状況を踏まえ、令和 6 年度は、『こだまに相談してみようと思える関係づくり』という目標を立てました。“こだまでできること 100”を作り、営業に行き魅力知ってもらい、信頼を気づくことにより、ケアマネや家族から気軽に相談してもらえるような関係を目指しています。

営業を続けながら、こだまを継続していく為には、自分たちに何を求められているのか、何をしていかなければならないのか、考えていきたいと思っています。

★地域に向けた活動

・ごみ箱作り

利用者と職員が、広告や新聞を折り、施設に寄付しています。

・園児との交流

ケアハウスの敬老会で、太鼓を披露してくれた園児たちと待ち時間に交流をしました。普段子供たちと接する機会がない為、涙を流しながら喜ばれていました。

令和6年度 デイサービスセンター嘉響の活動報告

地域密着型運営推進会議

令和6年11月8日

1) 令和6年度上半期の実績

- ・利用者の要介護認定は事業対象者から要介護4。
- ・年齢層は68歳から102歳。
- ・新規利用者は7名【事業対象者・要支援認定が7名】。
- ・終結者は3名【理由：状態変化による特養入居、死亡等】

(R5年度同時期：新規利用9名、終結11名)

今年度に入り、延べ利用者数や1日平均利用者数、稼働率がやや増加傾向にあります。新規利用者は前年度と大きく変わりはありませんでしたが、終結者は減少しています。前年度に長期利用されていた方が多くが終結となり、利用者の入れ替わりが進んだことが終結者の減少につながり、利用者数の増加となっている要因の一つだと思われます。

延べ利用者数に関しては、要支援認定利用者の延べ利用者数は昨年度と比べると減少しており、要介護認定利用者の延べ利用者数は増えています。長期入院されていた方が在宅復帰されたことに伴い、要支援認定で嘉響を利用されていた方が、入院経て要支援認定から要介護認定に変わった事や状態変化による利用増回などにより、要支援認定の延べ利用者数が減少し、要介護認定の延べ利用者数は増加したこと、収入はあがっています。

2) 2024年 品質目標

2024年度『顧客に選ばれる嘉響になろう』

① 地域ニーズの把握、検討、サービス展開

・例年新規利用者より終結利用者の方が多い状態は続き、稼働率が低迷している現状にあるため、嘉響利用者が多く住む山間部と市街地では、どのようなニーズがあり、ニーズに違いはあるのかを探るため、ケアマネジャーにアンケートを実施し、調査をしました。アンケート結果から分かった事は、ニーズで一番多かった回答は機能訓練、二番目に多かった回答は入浴となりました。機能訓練に関してはトレーニングマシンがあるデイサービスが選ばれており、ニーズが高い事が分かり、また理学療法士や作業療法士などがいることも利用者が通所介護事業所を選ぶ理由になった事が分かりました。そこで嘉響では、山間地に住んでいる方の多くが農家であることや農作業が継続して行えるように、年度内にトレーニングマシンを導入すべく、マシンの見学や体験に行き、トレーニングマシン導入の準備をしてきました。

入浴に関しては、今まで午後のみの対応だった入浴介助を午前中と午後の二部制にし、入浴希望者の受け入れを拡充してきました。

② 居宅、包括への訪問等による広報活動

・今年度は新規利用者獲得の為、広報活動にも力を入れてきました。3ヶ月に1回嘉響での活動を広報誌に載せ、利用者様の様子やその場の雰囲気を伝えたり、嘉響でできる事を伝えたりしてきました。またニーズの一番多い機能訓練に関してはアピールポイントを絞り、

嘉響での機能訓練の内容やその結果、利用者様の声、メリットなどを伝え、嘉響の魅力を発信してきました。

3) その他

上半期は、利用者満足度が高い食事に関する力を入れており、5月には新茶企画、8月には嘉響で初めて縁日を開催し、食事の提供には外部の業者を呼び、利用者様からは「すごく美味しかった」との声をいただきました。夏には脱水予防の呼びかけも兼ね、ゼリーの提供をするなど、毎月季節に合ったおやつを提供し、今までとは少し違ったやり方で利用者様が食を通して楽しめるように考えてきました。また昼食を現在の5品から6品に増やし、今後は食器の選定や外食等も検討し、更なる満足度の向上に向けて取り組んでいます。

最後に、上半期は体験利用者全員が本利用につなげることができました。体験利用者の利用目的をチーム内で共有、利用目的に沿ったサービス提供が今年度も継続して行えており、今後も新規利用者獲得のために嘉響の魅力を外へ発信しつつ、現在利用されている方の満足度もさらに上げるように考え、取り組んでいきたいと思います。